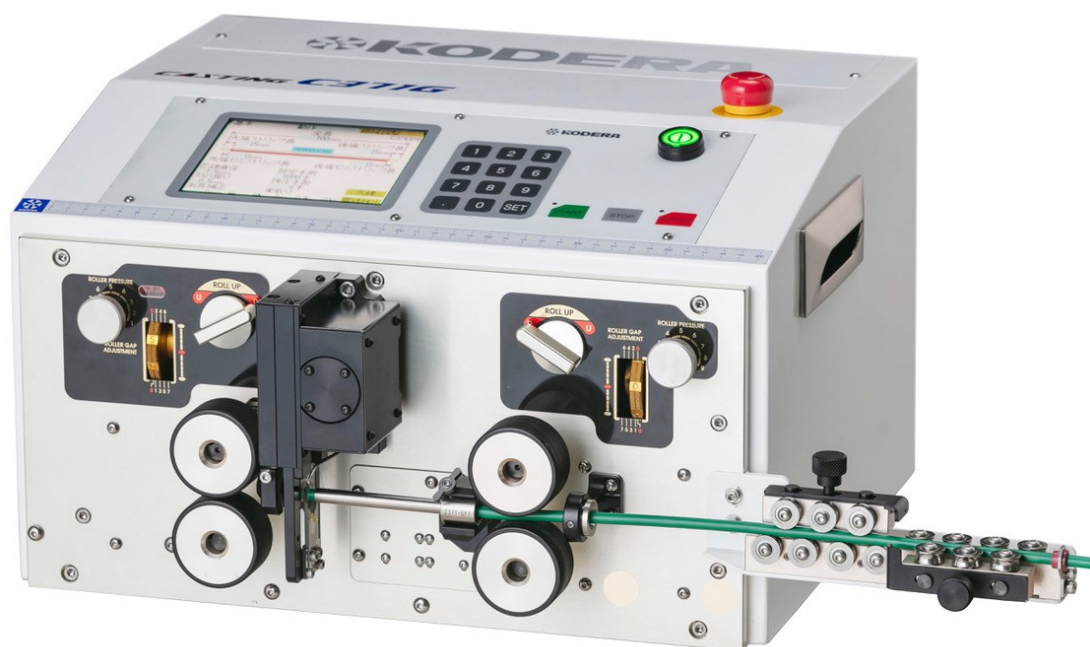


CASTING C371G

取扱説明書

Ver.1.4





お願い：CASTING C371Gを御使用になる前に本書をよく御読み下さい。
安全に作業して頂くために注意事項は必ずお守り下さい。
本書は、必要な時に取り出して読めるように常に手元に置かれて作業する事をお勧めします。













安全上の御注意


取扱いを誤りますと故障や事故の原因となりますので、運転前には必ずお読み頂き正しくお使い下さい。


◎ここでは、安全上の注意事項のレベルを「危険」および「注意」として区分してあります。

-  **危険：**取り扱いを誤った場合に、死亡または重傷を受ける可能性があります。
-  **注意：**取り扱いを誤った場合に、中程度の障害や軽傷を受ける可能性、あるいは物的損傷が発生する可能性があります。


使用上のご注意

-  **危険：**刃部には手などを近づけないで下さい。
ケガの原因になります。
-  **危険：**殺虫剤やペイント等の可燃性スプレーをファンの近くに置いたり、吹き付けしないで下さい。
発火の原因になります。
-  **注意：**加工中、ガイドパイプに手などを近づけないで下さい。
動作しておりますので、ケガの原因になります。
-  **注意：**加工中、ローラーに手を近づけないで下さい。
ローラーが高速回転しておりますので、ケガの原因になります。
-  **注意：**濡れた手でスイッチを操作しないで下さい。
感電の原因になります。
-  **注意：**本機に水をかけないで下さい。
感電や火災の原因になることがあります。
-  **注意：**ファンをふさがないで下さい。
排熱が出来ず本機に無理がかかって故障の原因になります。
-  **注意：**ヒューズの容量を守って下さい。
ヒューズの代わりに針金等を使用しないで下さい。
ヒューズや配電盤のブレーカが度々切れるときは、お買い上げの販売店にご相談下さい。
-  **注意：**異常（焦げ臭い等）時は、運転を停止し電源を OFF にして、お買い上げの販売店にご相談下さい。
異常のまま運転を続けると故障や感電・火災等の原因になります。
-  **注意：**本機の上に乗ったり、物を載せたりしないで下さい。
落下、転倒等によるケガの原因になることがあります。
-  **注意：**掃除、保守点検などの際、必ず電源コードを抜き本機に電気が来ていない状態にして下さい。
ケガや感電の原因になることがあります。
-  **注意：**修理は、お買い上げの販売店にご相談下さい。
修理に不備があると感電・火災等の原因になります。


 **注意：本機のメジャーは参考です。正確な寸法が必要な場合はお手持ちのメジャーで採寸して下さい。**

 **注意：本機の改修は行わないで下さい。**


据え付け上のご注意

 **危険：本機の重量に十分に耐えられる、出来るだけ水平な場所に、確実に設置して下さい。**


据え付けに不備があると、本機の落下によるケガや振動、運転音増大の原因になります。

 **注意：アースを取って下さい。アース線はガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないで下さい。**


アースが不完全な場合は、感電や誤動作の原因になることがあります。

 **注意：漏電ブレーカの取り付けが必要です。**


漏電ブレーカが取り付けられていないと、感電や火災の原因になることがあります。

 **注意：電源コードは付属の本機専用電源コードを必ず使用して下さい。**

火災等の原因になります。

 **注意：暑い所、湿気の多い所、または雨のかかる所等には設置しないで下さい。**

故障や感電・火災等の原因になります。

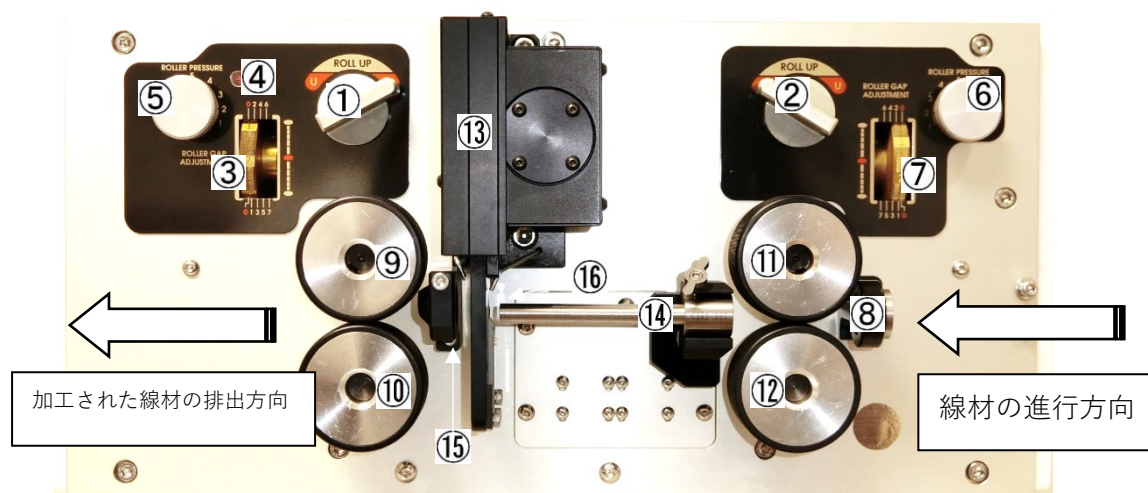
 **注意：振動のある場所は避けて下さい。**

故障やケガの原因になります。

目次

安全上の御注意	1
使用上のご注意	1
据え付け上のご注意	2
1. 前面機構部各部名称	4
2. 背面電源ボックスとエアーの接続	6
3. 操作パネルの各部説明	7
4. CN-03（クセ取り装置）の取付けと使用方法	8
5. 操作画面	9
《基本》設定画面	9
加工条件の設定方法	11
《動作》設定画面	14
《短線》の設定	17
《分割剥き》	18
《中抜き》	19
《二段剥き(芯線セミスト)》	20
《二段剥き(外被覆セミスト)》	21
《マーカー》	22
《機械調整》画面	24
6. チューブ切断や線材の切断のみの場合	26
7. 圧力調整について	26
8. 加工が終わって線材を取り出す時	27
9. ガイドパイプ交換方法	27
10. 線材ガイドの交換方法	27
11. 刃の交換方法	27
12. カッターブロックの保守・点検	28
13. こんな時には	29
14. 主なオプションパーツの一覧表	32
15. ガイドパイプ選定目安表	33
16. 各基板について	34
仕様	36

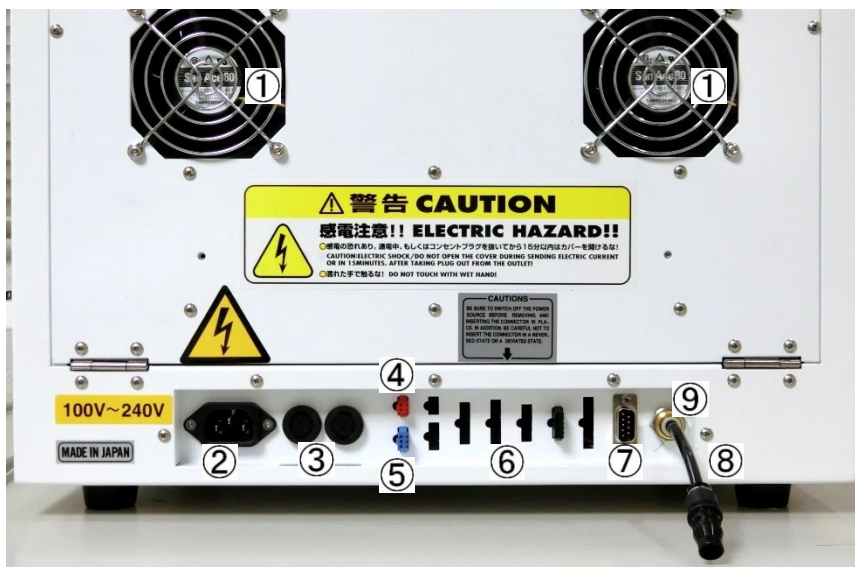
1. 前面機構部各部名称



- ①左側ローラーUP/DOWNつまみ・・・左側上ローラーをアップ（開く）つまみです。線材を取り出す時、《短線モード》時などに使用します。
- ②右側ローラーUP/DOWNつまみ・・・右側上ローラーをアップ（開く）つまみです。加工する線材を刃までセットする時に使用します。
- ③左側ローラーギャップ調整ダイヤル・・・左側ローラーの上下の隙間（ギャップ）の調整に使用します。ダイヤルを上回転させるとギャップが開き、下回転させるとギャップが狭くなります。（→P.12の④参照）
- ④線材検出表示LED・・・左側ローラーギャップが正しく調整されている場合に線材の検出時に点灯します。（→P.12の④参照）
- ⑤左側ローラー圧力調整つまみ・・・左側のローラーが線材をはさむ圧力を調整するつまみです。つまみを引っ張ってから任意の強さまで回して押し込みます。（→P.26の⑦参照）
- ⑥右側ローラー圧力調整つまみ・・・右側のローラーが線材をはさむ圧力を調整するつまみです。⑤と同じく調整します。（→P.26の⑦参照）
- ⑦右側ローラーギャップ調整ダイヤル・・・右側ローラーの上下の隙間（ギャップ）の調整に使用します。左同様ダイヤルを上回転させるとギャップが開き、下回転させるとギャップが狭くなります。通常は一番狭い状態で使用しますが、潰れやすい線の場合は調整して下さい。

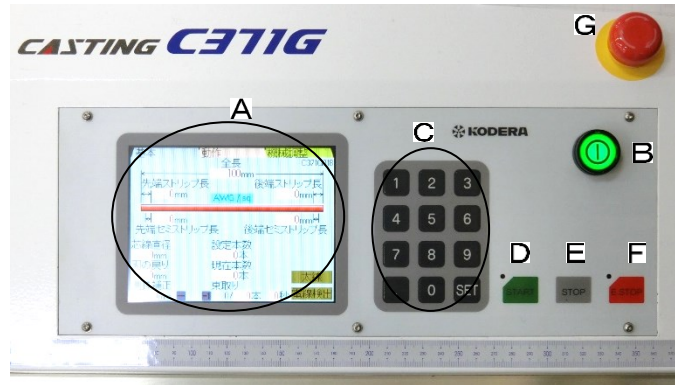
- ⑧右側線材ガイド・・・なるべく線材の太さに合わせて交換します。線材の外形に対して大きすぎると線材がローラーから脱落したり、小さすぎると抵抗になり全長がばらつく原因になる場合があります。(交換方法・種類は→P.2 7, 3 2 参照)
- ⑨⑩⑪⑫ローラー・・・4個共通部品です。被覆の固着の強さやローラー痕の許容によって各種交換用ローラーがあります。(→P.3 2 パーツの一覧参照)
- ⑬カッターブロック・・・切断とストリップ時に動作し、鋭利な刃を上下に装着しています。刃の取り扱いには注意して下さい。刃は消耗品です。摩耗や欠けが加工線材の仕上がりに大いに影響しますので刃の状態には注意して下さい。(刃の交換方法は→P.2 7 参照)
- ⑭ガイドパイプ・・・→P.3 2, 3 3を参考に線材の太さに適したガイドパイプを使用して下さい。後端の加工中にガイドパイプが動きますので、手などを近づけないでください。
- ⑮左側線材ガイド・・・加工する線材に合わせて3種類から選択できます。(→P.3 2 参照)
- ⑯被覆カス飛ばしノズル・・・フルストリップ加工時に被覆カスを飛ばすためにエアーが吹き出ます。エアー圧力は本体内部のレギュレーターで0.2Mpaに調整済みです。

2. 背面電源ボックスとエアアの接続



- ①本体冷却ファン・・・内部の熱を放出するファンです。放出口を塞がないで下さい。壁面から15cm以上離して設置して下さい。
- ②インレット・・・付属の電源コードを接続し、単相 AC100V~240V を供給して下さい。
- ③ヒューズホルダー・・・マイナスイドライバーで左に回すと中にヒューズがあります。付属のヒューズ及び指定のヒューズ以外は使用しないで下さい。(250V5A,5ΦL20,耐ラッシュ)
- ④外部入力コネクタ(赤)・・・動作中の本機を外部から停止させる際に使用する入力コネクタです。ドライ接点による短絡で本機を緊急停止させることができます。
- ⑤外部出力コネクタ(青)・・・本機から外部の機器への信号出力コネクタです。オプションのコンベア CC-100 などの接続に使用します。
- ⑥オプション接続用コネクタ穴・・・オプション機器を接続した際に通信ハーネスを接続するためのコネクタ用の穴が開いています。異物や水などが入らないようにして下さい。
- ⑦外部通信コネクタ・・・外部の PC 等から本機を制御する際の通信用コネクタです。
(RS232C)外部 PC を使用し通信する方法は購入された代理店へお問い合わせ下さい。
- ⑧プラグカプラーと 6φチューブ (付属品)・・・本体のエア供給用ワンタッチ継手に接続して下さい。付属品のソケットカプラーにコンプレッサーからのエアホースを接続し、プラグカプラーに接続して下さい。
- ⑨エア供給用ワンタッチ継手・・・エア元圧は 0.5MPa 以下で使用して下さい。
(セミストリップ加工の場合は、エアは必須ではありません)

3. 操作パネルの各部説明



各部の説明

(A) 設定画面 (タッチパネル)	この設定画面のキーは文中で《 》で表現します
(B) パワースイッチ・・・電源 ON/OFF スイッチ	電源 ON 時は点灯します。
(C) 数値設定キー群 (テン・キー) [0] ~ [9]までの数値入力用 [.]・・・小数点以下を設定する時に押します。 [SET]・・・全ての入力を決定する場合に押します。	
(D) START・・・スタートキー (作業開始) (E) STOP・・・ストップキー (加工動作サイクル停止※、アラーム音停止、エラー音停止から原点復帰) (F) E.STOP・・・エマージェンシーストップキー (緊急停止)	この設定画面のキーは文中で[]で表現します
(G) 非常停止スイッチ・・・即座に動作を停止します。	一度押し込んだ場合、時計回りに回すと復帰します。



注意：タッチパネルやキーは、鋭利な物で突いたり過剰な力を加えたりしないで下さい。操作不能になる場合があります。



※「サイクル停止」とは、[STOP] キーを押された時点で加工途中であれば、その線材を加工し排出までワンサイクル完了して停止することを示します。

[E.STOP] (F)キーを押すとすべての動作が即座に停止し、画面に「非常停止」が表示されアラーム音が鳴ります。[STOP] キーを押すと原点復帰動作をして解除されます。

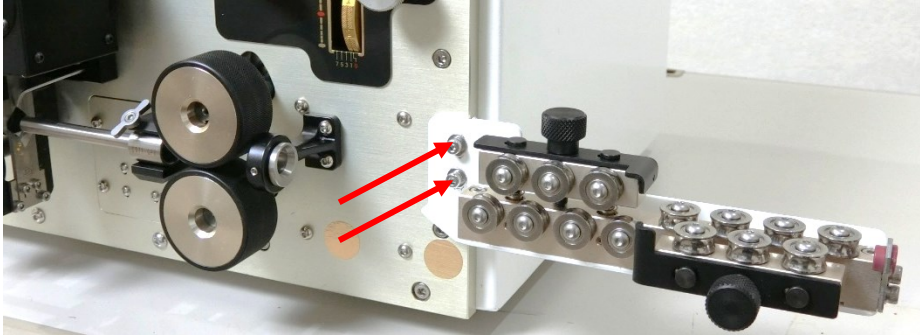
[非常停止スイッチ] (G)は押し込むとすべての動作が即座に停止し、画面に「非常停止」が表示されアラーム音が鳴ります。[非常停止スイッチ] を時計回りに回すとスイッチは解除され、[STOP] キーで原点復帰動作をします。

[E.STOP] キーとの違いは、[非常停止スイッチ] を回して解除するまでどのキーの入力も受け付けない点です。

4. CN-03（クセ取り装置）の取付けと使用方法

・取付け方法

下写真の様に付属の M4 座付きキャップスクリュー（矢印）2 点で CN-03 を固定して下さい。
固定位置は線材に合わせて上下に調整可能です。



・使用方法

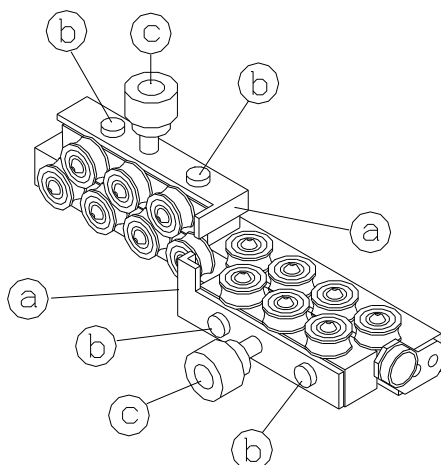
①のレバーを左右に押しますと、ロックが外れクセ取りローラー間が広がります。

線材を通しましたら、②を押さえて下さい。

③のつまみを回し、クセ取りローラー間の隙間の調整を行います。時計回りに回すとクセ取りローラー間が狭くなり、反時計回りに回すと広がります。縦方向と横方向のクセ取りローラー間の隙間を同じように調整して下さい。

線材によっては癖が取れやすい物と梱包時などの巻き癖が取れにくい物があります。

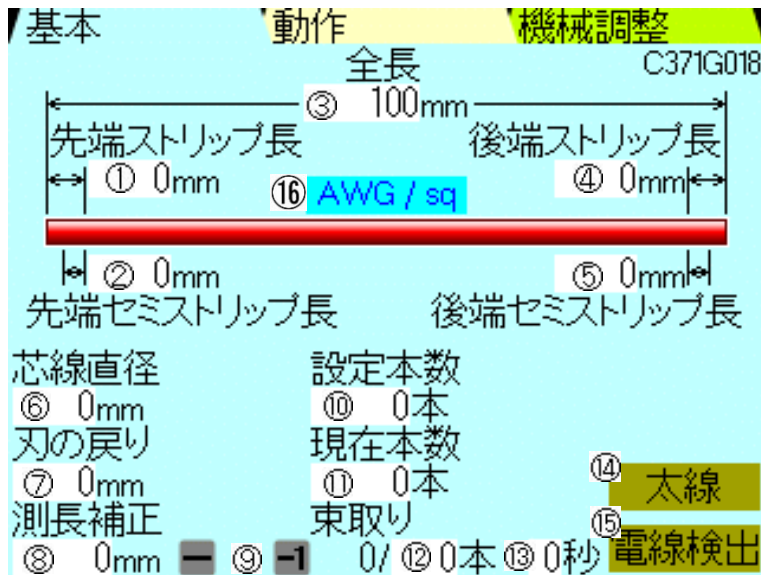
線材に合わせて調整して下さい。



クセ取りローラー間の隙間を狭く（強く）し過ぎますと、測長時の抵抗になり加工した線材の全長寸法が短くなります。

5. 操作画面

《基本》設定画面 標準の加工のとき《動作》画面(→P.14)で、⑤～⑨を選択しない。



- ① 《先端ストリップ長》：先端側被覆の剥ぎ取り長を設定します。
- ② 《先端セミストリップ長》：先端側のセミストリップ長を設定します。
- ③ 《全長》：線材の切断長を設定します。
- ④ 《後端ストリップ長》：後端側被覆の剥ぎ取り長を設定します。
- ⑤ 《後端セミストリップ長》：後端側のセミストリップ長を設定します。
- ⑥ 《芯線直径》：被覆の剥ぎ取り時の刃の深さです。(→P.11の2参照)
- ⑦ 《刃の戻り》：被覆の剥ぎ取り時の刃の戻し量です。(→P.12参照)
- ⑧ 《測長補正》：“設定した線材の全長”と“実際に加工した線材の全長”とが違う場合、ここで補正します。
0：補正無し

0.1mm 単位

0.01mm 単位

- | 例) 設定全長寸法 | 実際の加工全長寸法 | 補正量 |
|-----------|-----------|-----------------|
| ④ 1000mm | 997mm | のとき 3mm 3 を入力 |
| ⑥ 1000mm | 1005mm | のとき -5mm -5 を入力 |
- ⑨ 《-》：マイナスキー ⑧でマイナス補正をするときに使用します。
《-1》：マイナス1キー 《現在本数》(加工した本数)を-1します。

- ⑩ 《設定本数》：加工したい本数を設定します。(最大999, 999本)

⑪ 《現在本数》：加工された線材の本数です。

加工中は《現在本数》（加工した本数）が刻々と増えていきます。

加工した本数を“0”にしたい場合は、《現在本数》 [0] [SET] と押します。

⑫⑬ 《束取り》《秒》：束取り数。例えば、1000本加工で、50本の20束にしたい時に設定します。

《設定本数》 [1] [0] [0] [0] [SET]

《束取り》 [5] [0] [SET]

・束取り設定数終了ごとに、自動的に停止します。

停止したら、[START] で再スタートし、束取り設定数だけ加工します。

加工が始まると、1/50本…2/50本…3/50本のようにカウントします。

・束取りをやめたい時は、《束取り》 [0] [SET] で解除されます。

⑬秒：入力することにより束取り自動スタートを設定できます。

束取りで停止し、入力された時間（秒）経過後、自動で加工を始めます。

⑭ 《太線》太線モード：フルストリップ動作直後に [剥き後切断] (→P.26の14)等の動作が追加されるモードです。

シフトダウン時に線材をガイドパイプの入口方向に戻す動作が追加され、シフトダウン動作をしやすくします。さらに、シフトダウン状態から復帰するタイミングに余裕を持たせるので、加工中の後端と次の先端の干渉を防ぎます。

太線の定義は明確ではありませんが、フルストリップ時の被覆がガイドパイプと刃の間に挟まったり、干渉して次の動作の妨げになる場合に太線モードを使用して下さい。

※《太線》を解除しても [剥き後切断] は解除されません。

⑮ 《電線検出》：左ローラーギャップで線材の検出（線材の有無検出）を行うかどうかの設定です。左ローラーギャップが正しく調整されている(→P.12の4参照)場合、連続加工中に線材を使い果たすとセンサーが反応し加工が停止します。

⑯ 《AWG/sq》：加工する線材の芯線直径 AWG(アメリカンワイヤーゲージ/#)及び sq(スクエア/スクエア)の選択画面を表示します。AWG や sq のサイズが分かっている場合、⑥の芯線直径の目安となる数値を自動で呼び出す事が出来ます。

基本	動作	機械調整
AWG 7 / 10sq		AWG 18 / 0.75sq
AWG 8 / 8sq		AWG 20 / 0.5sq
AWG 10 / 5.5sq		AWG 22 / 0.3sq
AWG 12 / 3.5sq		AWG 24 / 0.2sq
AWG 14 / 2sq		AWG 26 / 0.12sq
AWG 16 / 1.25sq		AWG 28 / 0.08sq

左の画面で電線サイズを選択すると、《芯線直径》と《刃の戻り》にその目安となる数値が**自動で入力されます**。
※目安の数値なので必ずテストして実際の数値を決定して下さい。

加工条件の設定方法

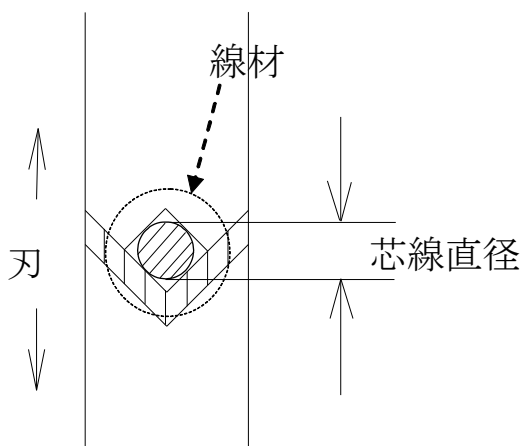


1. サンプルとして上図の線を加工する設定を下記の様に入力していきます。

入力

①	《先端ストリップ長》	[3]	[SET]
②	《先端セミストリップ長》	[0]	[SET]
③	《全長》	[7] [0]	[SET]
④	《後端ストリップ長》	[5]	[SET]
⑤	《後端セミストリップ長》	[3]	[SET]

2. 剥ぎ取り時の刃の深さ設定



線材の芯線直径(AWG/sq)が分かっている場合は、目安となる数値を自動で入力することが出来ます。

《基本》画面の《AWG/sq》から呼び出します。(→P.10の⑩を参照)

もしくは、下表に従って加工を行う線材の芯線の直径を《芯線直径》に入力して下さい。

まず数本試し加工(→P.13《簡単なサンプル作成機能》参照)を行い、芯線に傷が入る様であれば数値を大きく、剥ぎ取れない様でしたら小さくしていき、最適な数値を選び下さい。0.01mm単位で入力できます。

Sq	AWG	芯線の直径	Sq	AWG	芯線の直径
0.08	#28	0.32mm	1.25	#16	1.29mm
0.12	#26	0.40mm	2.0	#14	1.63mm
0.2	#24	0.51mm	3.5	#12	2.05mm
0.3	#22	0.64mm	5.5	#10	2.59mm
0.5	#20	0.81mm	8.0	#8	3.21mm
0.75	#18	1.02mm	10	#7	3.67mm

・同番線でも加工される線材によって、《芯線直径》の数値は変わりますので、上の表はひとつの目安として下さい。

剥ぎ取り時の刃の深さは、刃が芯線までギリギリに入っていると最適ですが、ストリップ動作時に芯線をひっかける恐れがあります。その場合は《刃の戻り》の数値を設定する事によって、一端、入った刃を《刃の戻り》の数値だけ隙間を広げてストリップします。

《刃の戻り》の数値の目安

- ・ 《芯線直径》の数値の約 1 / 3
- ・ 被覆の厚みの半分

《基本》画面の《AWG/sq》から芯線直径を選択すると、《刃の戻り》に芯線直径の 1 / 3 の数値が自動的に設定されます。

入力

⑥	《芯線直径》	[0]	[.]	[6]	[4]	[SET]
⑦	《刃の戻り》	[0]	[.]	[2]		[SET]

3.次は、加工本数の設定です。《設定本数》をテンキーにより入力します。最大 9 9 9, 9 9 9 本まで設定できます。試し加工の時は 2 ~ 3 本に設定します。

入力

⑧	《本数》	[3]	[SET]
---	------	-------	---------

ここまでで加工条件の設定は全て入力できました。

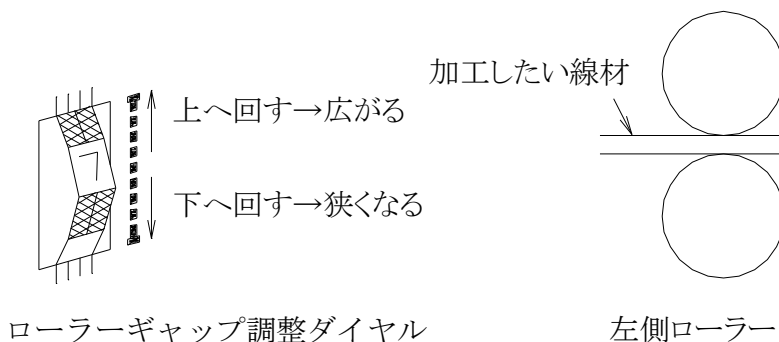
- ・ 間違った時や変更したい時 → もう一度その部分をタッチし変更します。

4.左側ローラーのギャップ調整をします。

- ① 左側ローラーUP/DOWN つまみを操作して **D** (DOWN) の位置 (ローラーが下がった状態) にして、加工したい線材をはさみます。
- ② 前面機構部のローラーギャップ (隙間) のダイヤルを上または下に回転させ加工したい線材を手で引いても抜けない程度に調整します。
- ③ ダイヤルの上下で線材検出表示 LED が点灯または消灯するポイントを探ります。通常は**線材検出表示 LED が消える位置から下側へ半回転から 1 回転した位置**が目安です。



注意：線材により広めにしたほうが良いもの、狭くしたほうが良いものがあります。被覆が柔らかく潰れやすい線は狭く、被覆が固い線は広くして下さい。



5.線材をセットします。（線材は右から左へ向かって送られます）

ここから A と B 二通りの手順があります。どちらかが正しいという訳ではありませんので、使用しやすい手順を選んで下さい。

【手順A】

- ① 右側ローラーUP/DOWN つまみを **U** (UP) の位置（ローラーが上がった状態）にしておきます。
- ② 線材を右手でクセ取りローラー、右側線材ガイド、右側ローラー上下の間、ガイドパイプを通し、刃より 5mm 程度左側まで入れ（あまり奥まで入れると不具合の原因となります）、右側ローラーを下げます。

【手順B：自動送り加工スタート】：→P.10の⑮《電線検出》を有効にして下さい。

- ① 左側ローラーギャップ調整が終わった状態であれば、ローラーを左右共に下がった状態 D(DOWN)の位置(ローラーが下がった状態)にします。
- ② 線材を右手でクセ取りローラーを通し、右側線材ガイド手前で線材を右手で持ちます。



ワンポイント：手順A・Bともに**左ローラー**は閉じていることを確認して下さい。左ローラーが開いた状態で加工した場合、線材が加工されず、加工失敗の原因となります。

- ③ [START]キーを押すと加工が開始されます。
手順Aの場合は即座に加工が開始されます
手順Bの場合はローラーが回転しますので、すぐに線材を右側線材ガイドからローラーへ挿入します。線材が左側ローラーまでいったん送られ、そのあと刃まで戻り加工が始まります。



注意：加工が始まりましたら線材から手を離して下さい。

注意：加工動作中は回転するローラーや刃に手などを近づけないで下さい。

6.加工された線材の全長・ストリップ長・芯線のキズを確認して下さい。

問題無ければ各設定値を任意に変更し本加工を行って下さい。

加工に問題がある場合は→P.29「こんな時には」を参照して下さい。



《簡単なサンプル作成機能》（試し加工）

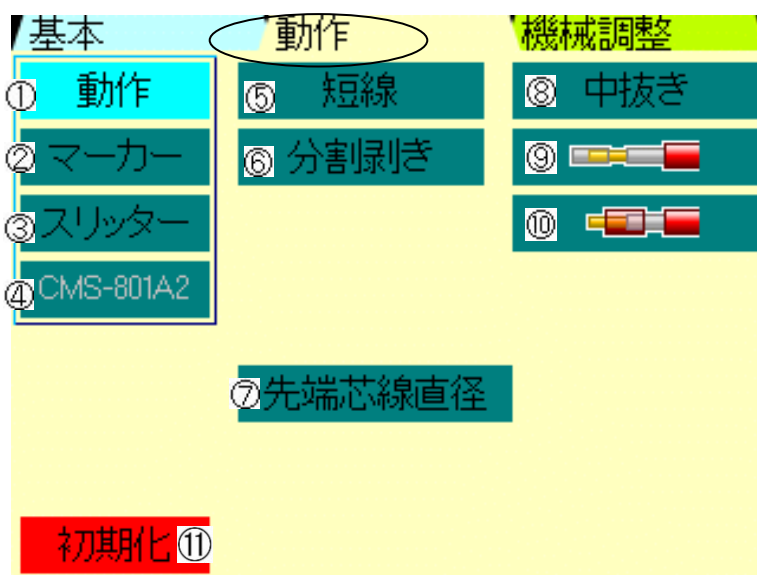
[STOP] キーを押しながら [START] キーを押します。

現在の刃の設定で「**全長 60mm、両端 3mm ストリップ加工**」の動作を行います。

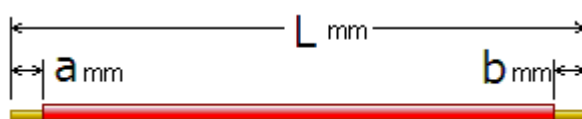
（線材の供給やギャップ調整などが正しく行われていれば上記の加工された線材が排出されます）

芯線の状態を確認し、必要であれば刃の設定を調整したあと全長などを設定すれば、手早く設定を完了させることができます。

《動作》設定画面 どの画面からでも《動作》を押すことにより表示します。



- ① 《動作》：《短線》《分割向き》《先端特殊向き》《中抜き》が無効になっているときに青点灯します。
《動作》がオレンジ色になっている場合は上記⑤～⑩のいずれかが有効になっていることを意味します。
- ② 《マーカー》：電線に印字をする装置を接続したときに設定します。使用していない場合は必ず無効にして下さい。（→P.22参照）
《マーカー》がオレンジ色になっている場合は、《マーカー》内のいずれかの設定が有効になっていることを意味します。
- ③ 《スリッター》：オプションの CSL-501（スリッター）を接続したときに設定します。使用しない場合は必ず無効にして下さい。（CSL-501 取説参照）
《スリッター》がオレンジ色になっている場合は《スリッター》内のいずれかの設定が有効になっていることを意味します。
- ④ 《CMS-801 A2》：オプションの CMS-801 A2（撚り機）を装備したときに設定します。使用しない場合は必ず無効にして下さい。（CMS-801 A2 取説参照）
《CMS-801 A2》がオレンジ色になっている場合は《CMS-801 A2》内のいずれかの設定が有効になっていることを意味します。
- ⑤ 《短線》：短線モード。下図で、 $L - (a + b) \leq 47.9\text{mm}$ 即ち被覆の残りが 47.9mm 以下の加工を行う時に有効にします。（→P.17参照）



これを“短線モード”といいます。自動では切り替わりませんので、被覆残り 47.9mm 以下の加工時は必ずこの《短線》を有効（オン）にして下さい。

- ⑥《分割剥き》：被覆と芯線との固着が強い・長いなどでストリップが出来ない場合、ストリップ動作を分割して行います。《基本》画面が《分割剥き》用に替わります。（→P.18参照）。
- ⑦《先端芯線直径》：先端ストリップ時と後端ストリップ時の刃の値を個別に設定する際に使用します。

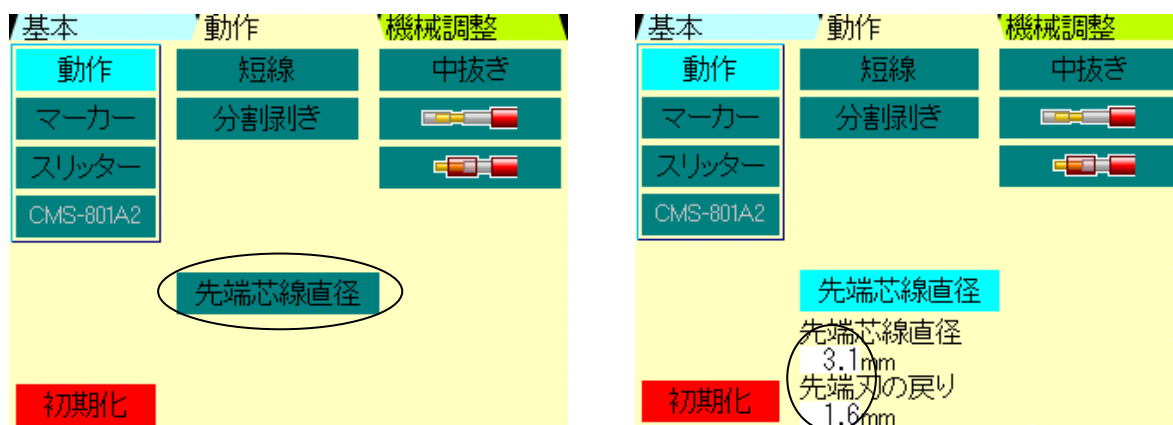
通常は、《基本》画面の《芯線直径》と《刃の戻り》の設定が先端と後端に同じく適用されますが、それぞれを別に設定することができます。
線材の特性などで、先端と後端が同じ値ではストリップで不具合が出る場合に使用します。

例：後端の被覆は問題無くストリップ出来ているが、先端の被覆がきれいにストリップ出来ない
→この場合は後端の《芯線直径》と《刃の戻り》の設定は変えずに先端の《芯線直径》のみをより小さくすることでストリップの仕上がり品質を向上させることができます。

《先端芯線直径》をタッチすると、《先端芯線直径》《刃の戻り》が表示されます。

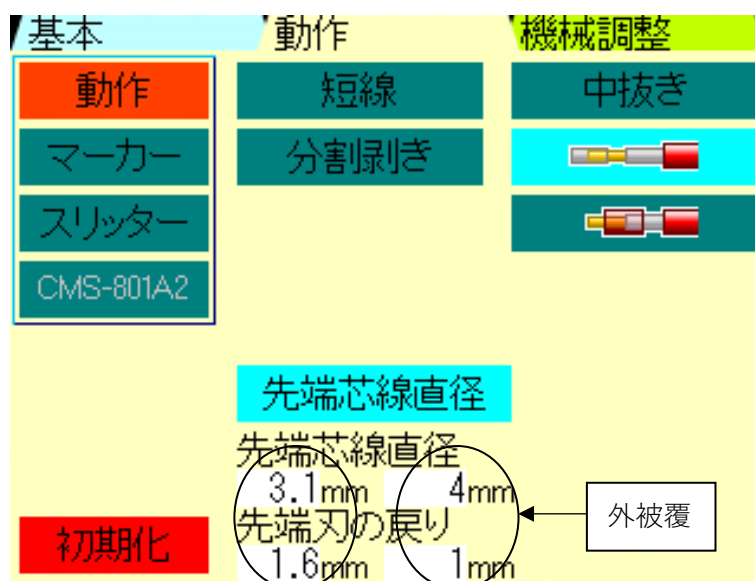
《基本》設定画面の《芯線直径》、《刃の戻り》と→P.11の2を参考に設定して下さい。
(0.01mm単位)

《先端芯線直径》を有効に設定している場合、《基本》設定画面の⑥《芯線直径》と⑦《刃の戻り》の設定は**後端芯線加工に適用され**ます。



《先端芯線直径》を誤操作で有効に設定している場合、「先端のみストリップ出来ない」「先端のみストリップ位置で切断してしまう」といったトラブルが発生する場合があります。
加工する線材の種類を変更した際などは、《先端芯線直径》機能の有効・無効も合わせて確認することをお勧めします。

《二段剥き》の設定時は、外被覆の《直径》・《刃の戻り》が設定できます。(→P.20参照)



この画面の場合、先端芯線直径は3.1mm、刃の戻りは1.6mmで、外被覆の直径は4mm、刃の戻りは1mmの設定となります。

- ⑧《中抜き》：中抜き加工を行う時に設定します。《基本》画面が《中抜き》用に替わります。(→P.19参照)。

注意：短線・中抜きは、セミストリップ加工の応用であり、芯線と被覆の固着が強いと設定通りの加工ができない場合もあります。加工された線材を基準にして設定を柔軟に変更して下さい。

- ⑨二重被覆などの電線の二段剥きで、芯線のセミストリップ加工を行うときに設定します。
《基本》画面が《二段剥き》用に替わります。(→P.20参照)

- ⑩二重被覆などの電線の二段剥きで、外被覆のセミストリップ加工を行うときに設定します。
《基本》画面が《二段剥き》用に替わります。(→P.21参照)

- ⑪《初期化》：画面のデータを初期化します。意図した加工が出来ない際に、どの設定を変更したか不明な場合などは《初期化》して再度設定を入力した方が早い場合があります。

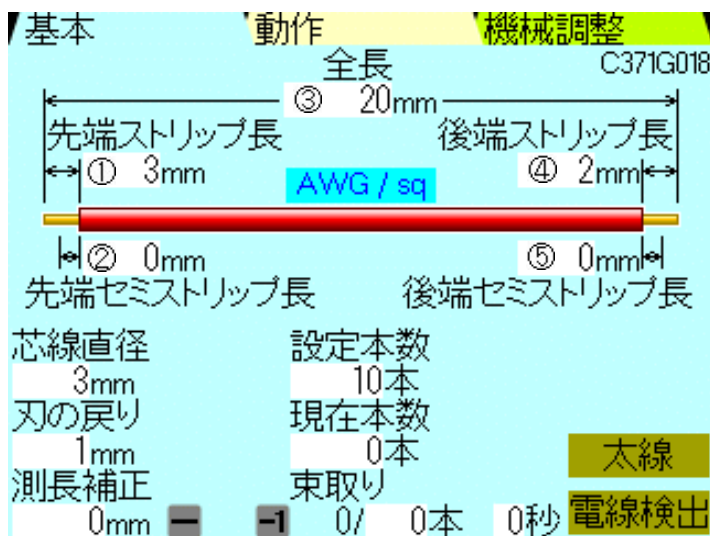
- ・《動作》画面と《基本》画面の内容がすべて初期化されます。オプション機器の設定が初期化され、未接続の状態になります。
- ・《機械調整》画面の《速度》はすべて“7”になります。
- ・《測長補正》、《総加工本数》、《刃原点》、メモリーされたデータは初期化されません。

《短線》の設定 《動作》画面（→P.14の⑤）で、《短線》を選択します。

被覆残りで、4.7、9mm以下のときは必ず《短線》の設定で加工して下さい。



必ず左ローラーをUPの状態にして下さい。線材が左側ローラーの上にたまる場合は左側の下ローラーを取り外して加工して下さい。



ワンポイント：芯線と被覆の固着が強いと設定通りの加工ができない場合もあります。また、短線加工ではセミストリップ加工は出来ませんがご希望のセミストリップ状態とは異なる場合があります。加工された線材を基準にして設定を柔軟に変更して下さい。

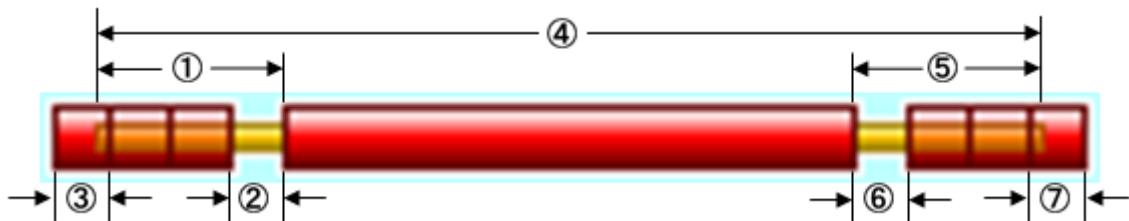
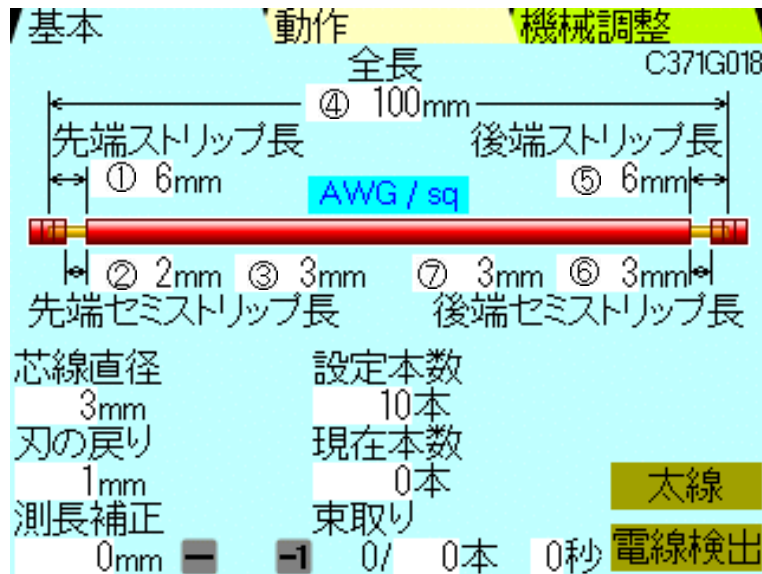
- ① 《先端ストリップ長》：先端側被覆の剥ぎ取り長を設定します。
- ② 《先端セミストリップ長》：先端側のセミストリップ長を設定します。
- ③ 《全長》：線材の切断長を設定します。
- ④ 《後端ストリップ長》：後端側被覆の剥ぎ取り長を設定します。
- ⑤ 《後端セミストリップ長》：後端側のセミストリップ長を設定します。

} 0.1mm 単位

短線モードの動作説明（上記の寸法の場合）

- (1) “先端 3mm”と“後端 2mm”を足した“5mm”をストリップする
- (2) “全長 20mm”のところに刃がはいる
- (3) “後端 2mm”の分、被覆を動かし切断する
(被覆の固着により設定値通りに動かない場合が多い)
- (4) 仕上がり

《分割剥き》のときの《基本》画面 《動作》画面(→P.14の⑥)で《分割剥き》を選択します。

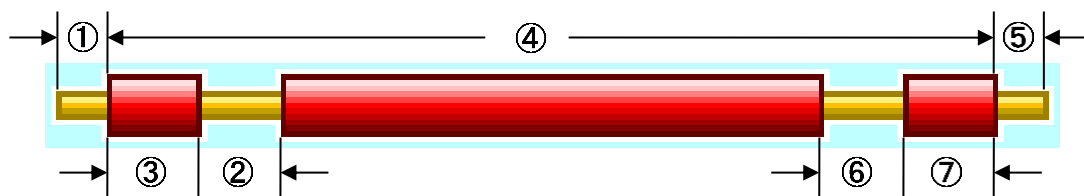
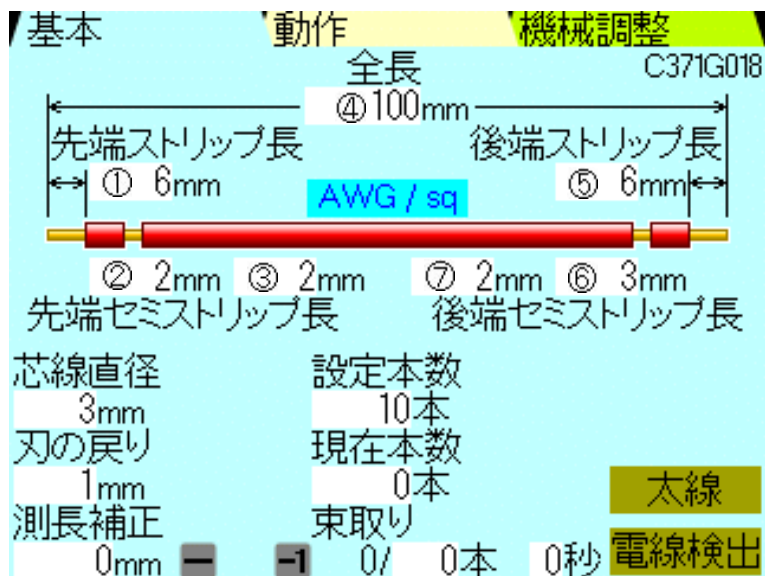


- ① 《先端ストリップ長》：先端側被覆の剥ぎ取り長を設定します。
- ② 《先端セミストリップ長》：先端側のセミストリップ長を設定します。
- ③ 先端側被覆の分割剥ぎ取り長を設定します。：被覆と芯線との固着が強い・長いストリップなどでストリップが出来ない場合、分割してストリップを行います。何 mm ずつ分割してストリップするか入力します。
- ④ 《全長》：線材の切断長を設定します。

ストリップ長に対して割り切れない余り分は分割の最後に加算されます
- ⑤ 《後端ストリップ長》：後端側被覆の剥ぎ取り長を設定します。
- ⑥ 《後端セミストリップ長》：後端側のセミストリップ長を設定します。
- ⑦ 後端側被覆の分割剥ぎ取り長を設定します。：被覆と芯線との固着が強い・長いストリップなどでストリップが出来ない場合、分割してストリップを行います。何 mm ずつ分割してストリップするか入力します。

0.1mm
単位

《中抜き》のときの《基本》画面 《動作》画面(→P.14の⑧)で、《中抜き》を選択します。



① 《先端ストリップ長》：先端側被覆の剥ぎ取り長を設定します。

② 《先端セミストリップ長》：先端側のセミストリップ長を設定します。

③ 《中抜き被覆長》：先端側の中抜き被覆長を設定します。

④ 《全長》：線材の切断長を設定します。

⑤ 《後端ストリップ長》：後端側被覆の剥ぎ取り長を設定します。

⑥ 《後端セミストリップ長》：後端側のセミストリップ長を設定します。

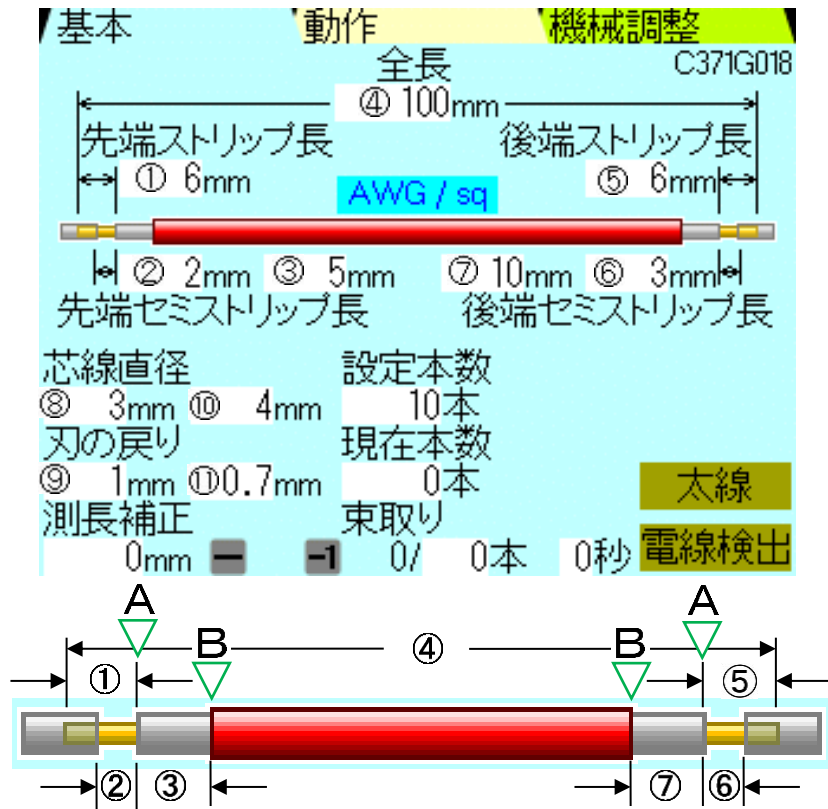
⑦ 《中抜き被覆長》：後端側の中抜き被覆長を設定します。

0.1mm 単位



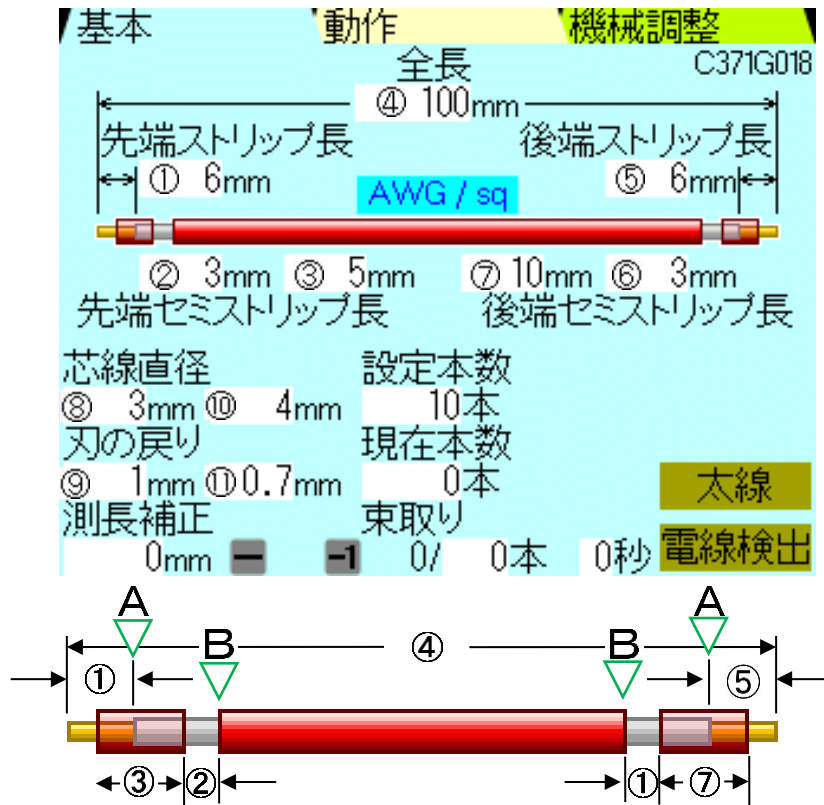
ワンポイント：芯線と被覆の固着が強いと設定通りの加工ができない場合もあります。
加工された線材を基準にして設定を柔軟に変更して下さい。

《二段剥き(芯線セミス)》のとき《基本》画面《動作》画面(→P.16)で、⑨を選択します。



- ① 《先端ストリップ長》：先端側被覆の剥ぎ取り長を設定します。
 - ② 《先端セミストリップ長》：先端側のセミストリップ長を設定します。
 - ③ 先端側の外被覆の剥ぎ取り長を設定します。
 - ④ 《全長》：線材の切断長を設定します。
 - ⑤ 《後端ストリップ長》：後端側被覆の剥ぎ取り長を設定します。
 - ⑥ 《後端セミストリップ長》：後端側のセミストリップ長を設定します。
 - ⑦ 後端側の外被覆の剥ぎ取り長を設定します。
- } 0.1mm 単位
- ⑧ 《芯線直径》：被覆の剥ぎ取り時の A での刃の深さです。(→P.11の2参照)
 - ⑨ 《刃の戻り》：被覆の剥ぎ取り時の A での刃の戻り量です。(→P.12参照)
 - ⑩ 外被覆の剥ぎ取り時の B での刃の深さです。(→P.11の2参照)
 - ⑪ 外被覆の剥ぎ取り時の B での刃の戻り量です。(→P.12参照)
- } 0.01mm 単位

《二段剥き(外被覆セミスト)》のときの《基本》画面《動作》画面(→P.1 4)で⑩を選択します。



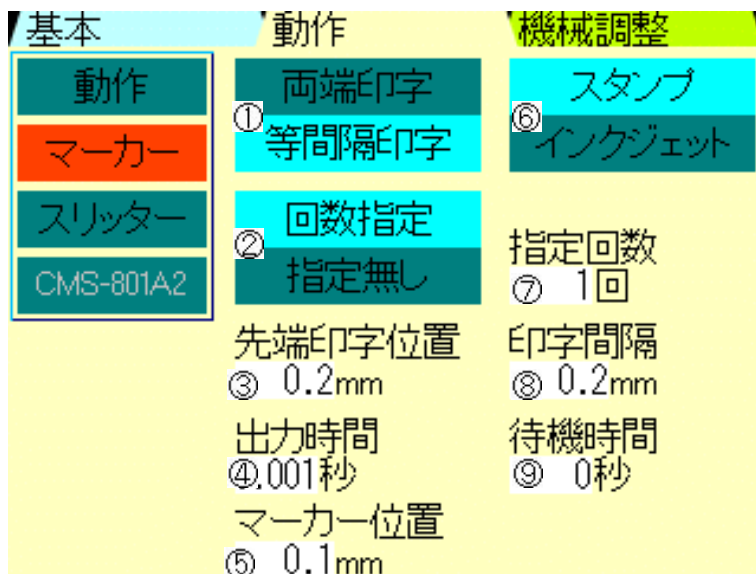
- ① 《先端ストリップ長》：先端側被覆の剥ぎ取り長を設定します。
 - ② 《先端セミストリップ長》：先端側の外被覆のセミストリップ長を設定します。
 - ③ 先端側の外被覆の剥ぎ取り長を設定します。
 - ④ 《全長》：線材の切断長を設定します。
 - ⑤ 《後端ストリップ長》：後端側被覆の剥ぎ取り長を設定します。
 - ⑥ 《後端セミストリップ長》：後端側の外被覆のセミストリップ長を設定します。
 - ⑦ 後端側の外被覆の剥ぎ取り長を設定します。
- } 0.1mm 単位
- ⑧ 《芯線直径》：被覆の剥ぎ取り時の A での刃の深さです。(→P.1 1 の 2 参照)
 - ⑨ 《刃の戻り》：被覆の剥ぎ取り時の A での刃の戻り量です。(→P.1 2 参照)
 - ⑩ 外被覆の剥ぎ取り時の B での刃の深さです。(→P.1 1 の 2 参照)
 - ⑪ 外被覆の剥ぎ取り時の B での刃の戻り量です。(→P.1 2 参照)
- } 0.01mm 単位

《マーカ―》のときの《動作》画面《動作》画面(→P.14の②)で《マーカ―》を選択します。



マーカ―機器を接続し、連動使用するときには設定します。

C371G 本体内部に追加ハーネスが必要です。(詳細は代理店へお問い合わせください)



上記画面は、説明用にマーカ―で表示される項目を全て表示しました。

設定によって、表示される項目、表示されない項目があります。

① 《両端印字/等間隔印字》：電線にどのように印字するかの設定です。

《両端印字》：電線の両端末に印字する。

《等間隔印字》：1本の電線に等間隔で複数回印字する。

どちらも選択されていない場合は、マーキングしません。

② 《回数指定/指定なし》《同時印字/別印字》：

《両端印字》を選択していると、《同時印字/別印字》表示です。

《等間隔印字》を選択していると、《回数指定/指定なし》と表示内容が替ります。

《同時印字》：マーキングのヘッド一個で先後端同時に印字を行います。

《別印字》：マーキングのヘッド一個を、先端・後端の2回動作させ別々に印字を行います。

《回数指定》：1本の電線に等間隔で⑦で指定した回数印字します。

《指定なし》：1本の電線に⑧で指定した間隔で印字します。

③ 《先端印字位置》：先端側の印字を行う位置の設定です。(電線の先端側の端末からの距離)

④ 《出力時間》：マーカ―への信号出力時間を入力します。

⑤ 《マーカ―位置》：“C371GのV刃”から“マーカ―ヘッドの中心”までの距離を入力します。

⑥ 《スタンプ/インクジェット》：使用するマーカ―の種類を選択します。

⑦ 《指定回数》：②で《回数指定》を選択した場合1本の電線に等間隔で何回印字するかを設定します。

⑧ 《印字間隔》《後端印字位置》：

《両端印字》《別印字》を選択しているとき、《後端印字位置》を表示します。

それ以外の選択で、《印字間隔》と表示内容が替ります。

《後端印字位置》：後端側の印字を行う位置の設定をします。

(電線の後端側の端末からの距離)

《印字間隔》：①で《等間隔》を選択した場合に、印字の間隔を入力します。

⑨ 《待機時間》：マーカーへの信号の出力を止めてから、C371G が動作開始するまでの時間を入力します。

設定と表示する項目

スタンプ

	両端印字& 同時印字	両端印字& 別印字	等間隔印字& 同時印字	等間隔印字& 別印字
先端印字位置	-	○	○	-
出力時間	○	○	○	○
マーカー位置	○	○	○	○
指定回数	-	-	○	-
印字間隔	-	-	○	-
後端印字位置	-	○	-	○
待機時間	○	○	-	○

インクジェット

	両端印字& 同時印字	両端印字& 別印字	等間隔印字& 同時印字	等間隔印字& 別印字
先端印字位置	-	○	○	-
出力時間	○	○	○	○
マーカー位置	○	○	○	○
指定回数	-	-	○	-
印字間隔	-	-	○	-
後端印字位置	-	○	-	○
待機時間	-	-	-	-

《機械調整》画面 どの画面からでも《機械調整》を押すと表示します。



- ① 《言語選択》：C371G の操作パネルで表示する言語の選択です。
英語、日本語、簡体中国語、繁体中国語、韓国語、ポーランド語、トルコ語、インドネシア語、タイ語、ベトナム語を選択可能です。
- ② 《メモリー書き込み》：現在の設定を記憶させたい番号をテンキーで入力し、[SET] を押すとメモリーに書き込まれます。“0”～“5 0 0”までメモリー出来ます。
- ③ 《メモリー読み出し》：呼び出したいメモリー番号をテンキーで入力し、[SET] を押すと記憶されていたメモリーが読み出されます。
- ④ 《測長補正》：測長の補正です。
- ⑤ 《排出時間》：オプションの CC-100（コンベア）を取り付けた時に使用します。最小単位：0.1 秒
- 左側が「タイマー1」：CASTING の加工が終わり、線材を排出してから、プッシュアウトカバーが動作始めるまでの時間です。
- 中央が「タイマー2」：プッシュアウトカバーが前に出ている時間です。
- 右側が「タイマー3」：プッシュアウトカバーが元の位置に戻ってから、CASTING が次の加工に入るまでの時間です。

⑥ 《稼働情報》：これまでの稼働情報が表示されます。

基本	動作	機械調整
加工本数 0本	《加工本数》リセット可：毎日の加工本数の集計に使用できます	
総加工本数 0本	《総加工本数》リセット不可：加工本数の累計に使用できます。	
稼働時間 0h 0m 0s	《稼働時間》リセット可：毎日の稼働時間の集計に使用できます。	
総稼働時間 0h 0m 0s	《総稼働時間》リセット不可：稼働時間の累計に使用できます。	
切断回数 0回	《切断回数》リセット可能：切断動作をカウントします。	
刃交換通知 100000回	《刃交換通知》リセット不可	

《刃交換通知》：上の《切断回数》が《刃交換通知》の設定回数を超えると、電源 ON 時・サイクル停止時・原点復帰時に「刃を交換して下さい」の表示が出ます。

その場合は速やかに刃を新品に交換して下さい。

刃の交換後は《切断回数》をリセットして下さい。

※ 《刃交換通知》は初期設定で 100,000 回に設定されていますが変更可能です。変更方法は代理店へお問い合わせ下さい。



摩耗した刃・欠けた刃を使用し続けた場合、機構部に過負荷が蓄積し不具合につながります。

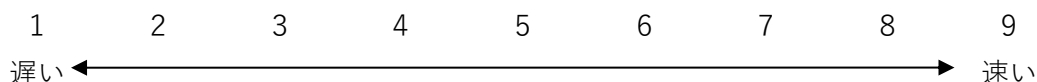
速度を下げないとカッターエラーが出て切断できなくなった場合は、刃の異常の可能性があります。刃の状態は定期的に確認して下さい。

《速度》調整：線材によっては、加工速度が速いとローラーがスリップしたり、切断時に刃が力負けしてモーター脱調を起こす場合があります。そのような際は、各モーターの動作速度を単独で変更する事ができます。

ローラーがスリップした場合は、設定された寸法で加工されません。全長は短くなります。線材の被覆にローラーのスリップ痕が残ります。

ローラーモーターが脱調した場合は、設定された寸法で加工されません。ほとんどの場合全長は短くなります。ローラーのスリップ痕は残りません。

切断時にモーターが脱調した場合は、切断できずに「刃モーターエラー」が表示されます。



⑦ 《測長速度》：被覆の剥ぎ取り時**以外**のローラーの速度の設定です。線材の供給速度に合わせて設定して下さい。

⑧ 《ストリップ速度》：被覆の剥ぎ取りをしているときのローラーの速度の設定です。被覆と芯線の固着状態によってはこの速度を下げないとストリップ出来ない場合があります。

- ⑨ 《刃速度》：線材を切断するとき**以外**の刃の速度の設定です。切断後に刃が開く速度や刃の戻り動作時の速度です。
- ⑩ 《切断速度》：線材を切断するときの刃の速度の設定です。芯線構成が細くて多芯な場合は速度を上げて切断できる場合が多いですが、芯線が太く硬い場合は切断速度を下げないと切断できない場合があります。（切断できない場合“刃モーターエラー”になります）
- ⑪ 《mm/inch》：数値の入力単位を切り替えます。（変換機能はありません）
- ⑫ 《完了アラーム》：有効にすると、《現在本数》が《設定本数》に到達した際に加工完了のアラームが鳴ります。アラームは《STOP》キーで停止します。
- ⑬ 《ステップ送り》：有効になっている場合、[START] キーを押すか、画面の [次のステップへ] をタッチすると一工程ずつ（コマ送り）加工を行います。
《ステップ送り》の周囲が青色となっているとき、ステップ送りが有効です。
- ⑭ 《剥き後切断》：フルストリップ直後に切断動作を追加することが出来ます。この動作を有効にすると被覆カスが刃に残らずに落ちやすくなります。
フルストリップ加工時は《剥き後切断》を有効にすることをお勧めします。
- ⑮ 《刃原点》：刃の原点の調整です。刃の交換時に刃原点位置の微調整に使用します。
刃の消耗時や刃の交換後に今までの刃の設定と合わなくなった場合に調整できます。
数値を小さくする → 刃の原点が広がります。（80 まで）
数値を大きくする → 刃の原点が狭くなります。（120 まで）
《0.45》をタッチすると、刃が理論上の直径 0.45mm まで閉じます。直径 0.45mm の線（I V 1.25Sq の芯線 1 本が直径 0.45mm です）などを使用し引っかかりなく通る状態になるように、《刃原点》の数値を調整します。出荷時 100 に調整されています。

《0.45》をタッチすると刃が動作しますのでご注意ください。

6. チューブ切断や線材の切断のみの場合

《全長》のみ設定し、《先端ストリップ長》《先端セミストリップ長》《後端ストリップ長》《後端セミストリップ長》をすべて“0”にします。

本数設定とギャップ調整は必要です。《芯線直径》《刃の戻り》はどんな数値でもかまいません。

7. 圧力調整について

線材が特に堅いときや被覆の剥ぎ取りの困難な線材はローラーの圧力を上げます。左右の圧力調整つまみを引いて回します。数字が大きいくほど圧力が強くなります。

任意の強さの段階でつまみを押し込むと固定されます。圧力を強くすると線材の被覆にローラーの跡が目立ちやすくなります。

被覆の固着状態に合わせて圧力を調整し、ローラー痕を軽減したい場合はローラーを別途用意し適した物を使用して下さい。

粗い ←← アヤメ荒 ←← アヤメ細(標準) ---- サンドショット →→ ウレタンローラー →→ 細かい
(グリップが強い) (グリップが弱い)

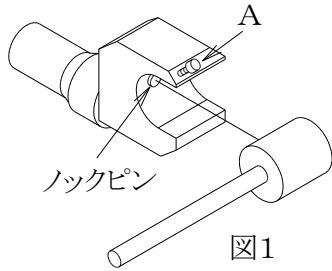
8. 加工が終わって線材を取り出す時

右ローラーUP/DOWNつまみをU(UP)に回してローラーを上げ線材を取り出します。



注意：ローラーで長時間線材を挟んだままにすると、線材が変形し潰れる恐れがあります。
加工しないときは線材を抜いて下さい。

9. ガイドパイプ交換方法

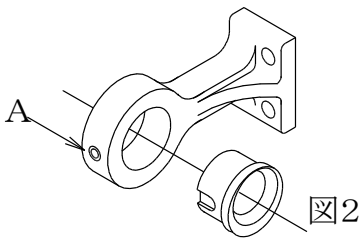


- ・取り外し：Aの蝶ネジを緩め、ガイドパイプを手前に引き出して下さい。
- ・取り付け：ガイドパイプのロック穴にロックピンが入るように取り付け、Aの蝶ネジを締めて下さい。

(図1参照)

Aの蝶ネジは締めすぎないようにご注意下さい。

10. 線材ガイドの交換方法

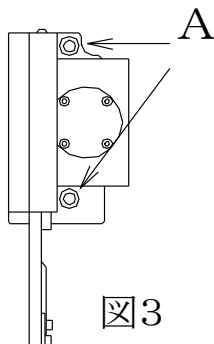


- ・取り外し：AのM3ホーローネジを付属の六角レンチで緩め、右に引き出して下さい。
- ・取り付け：線材ガイドの溝が、AのM3ホーローネジと合うように奥までしっかり挿入後AのM3ホーローねじを締めて下さい。(図2参照)

11. 刃の交換方法

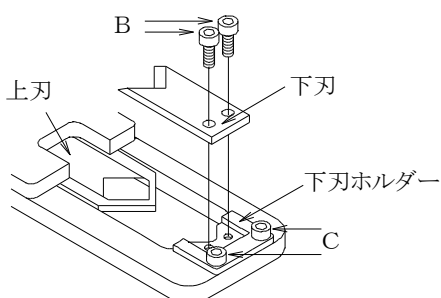


刃の取り扱いには十分に注意して下さい。怪我をする恐れがあります。



- ・AのM6キャップスクリューを付属の六角レンチで2か所外し、カッターブロックを手前に外します。ロックピンで位置決めしていますので、手前に水平にゆっくり引き抜きます。

(図3参照)



- ・BのM3キャップスクリューを付属の六角レンチで外し、下刃から取り外します。

(図4参照)

Cのキャップスクリューは緩めないでください。

図4

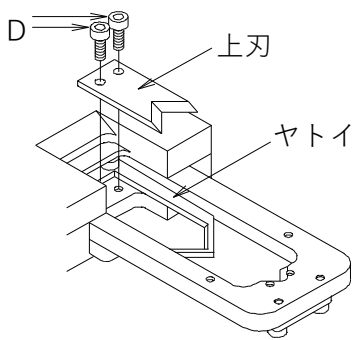


図5

- ・ Dの M3 キャップスクリューを外し、上刃を取り外します。
(図5 参照)
- ・ 取り付けは、まず上刃を上刃ホルダーの奥までしっかり挿入し、
Dの M3 キャップスクリューを締めて固定します。
- ・ 次に下刃を、下刃ホルダーに奥までしっかり挿入し、
Bの M3 キャップスクリューで取り付けます。

(図4 参照)

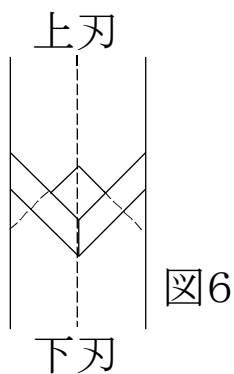


図6

- ・ 刃を取り付けた後、図6のように上刃と下刃の中心がずれていないことを確認して下さい。

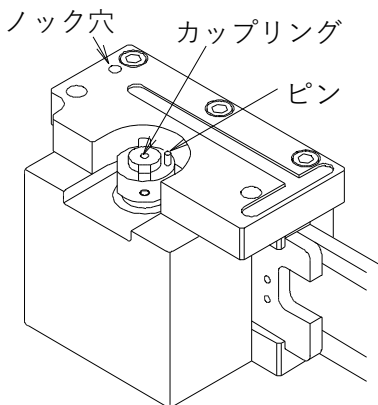


図7

- ・ カッターブロックを取り付けます。カップリングの凹凸、ピン、ノックピンとノック穴を本体側と正確に合せ取り付け、図3のAの M6 キャップスクリューを締めて下さい。
(図7 参照)
- ※ 刃の取り扱いには十分注意して下さい。

12. カッターブロックの保守・点検

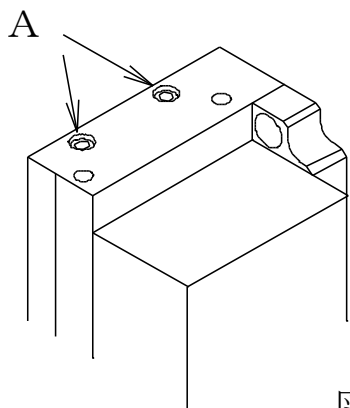


図8

- ・ Aのホーローネジを外し、Aの穴から付属のモリブデングリスを注入して下さい。
- ・ Aのネジを軽く締めて下さい。締めることによりグリスが内部に浸透します。



注意：カッターブロックの焼き付き防止のため、グリスが切れないように点検して下さい。

13. こんな時には

こんな時には	調べるところ	直し方
1)線材が自動送り加工スタートしない。 線材が送られない	《短線》モードになっていないか？ 右・左ローラーがUPの状態になっていないか？	《短線》モードを解除する。(→P.14の⑤参照) ロールアップレバーをDOWNにする。(ローラーを閉じる)
《START》と同時に加工が始まってしまう。	左側ローラーギャップが狭すぎて線材検出表示LEDが付いたままになっていないか？ 《電線検出》が無効になっていないか？	左側ローラーギャップを調整する。(広げる。→P.12の④参照) 《電線検出》を有効にする。
線材がどんどん送りだされるが加工が始まらない。	左側のローラーギャップが広すぎないか？(電線が検知されない。)	左側ローラーギャップを調整する。(狭くする。→P.12の④参照)
2)先端だけストリップされない。または先端だけバラつく。	《芯線直径》か《刃の戻り》の数値が大きすぎているか？ 右側ローラー圧力が弱く、ストリップ時にローラーが滑っていないか？ 《先端芯線直径》が有効になっていないか？ 右側ローラーが摩耗して滑っていないか？	《芯線直径》《刃の戻り》の数値を小さくしていく。 後端のストリップに問題が無い場合、→P.15の⑧を参照して先端のみ《芯線直径》《刃の戻り》を小さくする。 右側ローラー圧力を強める。(→P.26の⑦参照) または、よりグリップ力の高いローラーに交換する。 《先端芯線直径・先端刃の戻り》の設定値が基本画面の《芯線直径・刃の戻り》の設定値とかけ離れて小さくなっていると、先端のみ芯線が切れたり、キズが入ったりします。 溝ができていたりしている場合新しいローラーと交換する。
3)後端だけストリップされない。または後端だけバラつく。	左側ローラーギャップが広くないか？ 《芯線直径》か《刃の戻り》の数値が大きすぎているか？	左側ローラーギャップを調整する。(狭くする。→P.12の4参照) 《芯線直径》《刃の戻り》の設定値を小さくしていく。 先端のストリップに問題が無い場合、基本画面の《芯線直径》《刃の戻り》の数値を《先端芯線直径》《先端刃の戻り》に入力し、基本画面の《芯線直径》《刃の戻り》の設定値を小さくする。

	左側ローラーが摩耗して滑っていないか？	溝ができたりしている場合新しいローラーと交換する。
4)先後端ともストリップされない。	《芯線直径》か《刃の戻り》の数值が大きすぎているか？	《芯線直径》《刃の戻り》の数值を小さくしていく。
5)被覆全体やストリップした芯線部に傷がつく。	左側ローラーギャップが狭すぎないか？	左側ローラーギャップを調整する。(広げる。→P.12の4参照)
	ローラー圧力が強すぎているか？	ローラー圧力を調整する。
	ローラーの種類が線材に合っているか？	線材によっては綾目ローラー痕が目立つものがあるので、サンドショットローラーやウレタンローラーに交換する。
6)芯線の根元に傷が入る。	《芯線直径》の数值が小さくないか？	《芯線直径》の数值を大きくする。
7)芯線の途中に傷が入る	《刃の戻り》の数值が小さくないか	《刃の戻り》の数值を大きくする。
8)芯線が切れる	《芯線直径》の数值が小さくないか？	《芯線直径》の数值を大きくする。
	ガイドパイプの内径が線材の直径に対して余裕がありすぎないか？(線材を刃の中心にガイドしていない)	線材に合ったガイドパイプを使用する。
	被覆カスが刃に残り加工線材と同時に切り込んでいないか？	セミストリップ設定で加工する。被覆カス飛ばしエアブローの圧力を上げる。 《剥き後切断》モードを使用する。(ストリップ動作直後にカット動作が追加され被覆カスが落ちやすくなります。)
10)線材が送られず、ジャミングする。	線材が刃に当たって詰まっていないか？	ガイドパイプが線材の外径に対して大きすぎる場合、上下の刃の間にガイドされずに線材が刃にあたり進めない場合があります。線材の外径プラス1mm程度のガイドパイプを使用して下さい。 もしくは、《太線》モードを使用する。(→P.10の⑭参照)
	線材がガイドパイプ内で詰まっていないか	線材の太さに対してガイドパイプ内径が細い場合はより太い物に交換する。線材の潰れや曲がりクセなども考慮して選定して下さい。

	ガイドパイプが極端に曲がっていないか？（線材を刃の中心にガイドしていない）	正常なガイドパイプは刃の中心に向かって緩やかに曲げがあります。落下等の衝撃で異常に曲がっている場合は修正するか交換して下さい。
11) タッチパネルが触れた個所と違う部分で反応する。	タッチパネルの反応ずれ。	[STOP]を押しながらパワースイッチを ONするとキャリブレーションモードになります。画面の+を2か所タッチして下さい。この操作で改善しない場合はタッチパネルの損傷の可能性がありますので、代理店へご相談下さい。
12) 「電線を確認して下さい」の表示で加工停止した。	《電線検出》が有効(ON)になっていて、線材が無くなったことを検知した。	《電線検出》を使用する場合は→P.10の⑮,→P.12の4を参照し、左ローラーのギャップ調整を正しく行って下さい。《電線検出》を使用したくない場合は《電線検出》を無効(OFF)にして下さい。
13) [START] キーを押しても動作せず、画面も先に進まない。	《動作》設定画面で誤設定がある。 オプション機器が正しく接続されていない。 オプション機器の原点復帰動作が完了していない。	《動作》画面にある [スリッター] や [CMS-801 A2] が誤って有効(ON)になっている場合は無効(OFF)にします。 オプション機器が接続されている場合は、その機器の電源や本機との接続ハーネスが正しく接続されているか確認して下さい。 《動作》画面の [動作] をタッチし、左下にある [初期化] をタッチし初期化(P.16の⑫)を行うと不要な設定が初期化されるので、改めて必要項目を設定して動作を確認して下さい。

※原因がわからない場合は、[機械調整] 画面(→P.24)で、各速度を遅くして試し加工をして下さい。速度を遅くすることにより、目視で確認できる場合があります。
また、[機械調整] 画面で《ステップ送り》(→P.26の⑬)を使用するとコマ送り動作になり状況が分かりやすくなる場合があります。

14. 主なオプションパーツの一覧表

型 図	名 称	部品番号	備 考
	ガイドパイプ 2 φ	07-007-A0	
	ガイドパイプ 3 φ	07-007-B0	
	ガイドパイプ 4 φ	07-007-C0	
	ガイドパイプ 5 φ	07-007-D0	
	ガイドパイプ 6 φ	07-007-E0	
	ガイドパイプ 7 φ	07-007-F0	標準
	ガイドパイプ 8 φ	07-007-G0	
	ガイドパイプ 9 φ	07-007-H0	
	ガイドパイプ 10 φ	07-007-I0	
	ガイドパイプ 11 φ	07-007-J0	
	右側線材ガイド 4 φ	07-012-A0	
	右側線材ガイド 7 φ	07-012-B0	
	右側線材ガイド 12 φ	07-012-C0	標準
	アヤメローラー 荒目	07-005-A0	4個で1セット 標準
	アヤメローラー 細目	07-005-B0	4個で1セット
	サンドショットローラー	07-005-C0	4個で1セット
	ウレタンローラー	07-005-D0A	4個で1セット
	替刃 超硬刃 太物用	07-015-A0	2枚で1セット
	替刃 超硬刃 細物用	07-015-B0	2枚で1セット
	替刃 S7刃 太物用	07-015-C0	2枚で1セット 標準
	替刃 S7刃 細物用	07-015-D0	2枚で1セット
	左側線材ガイド 4 φ	07-013-F0	
	左側線材ガイド 7 φ	07-013-D0	
	左側線材ガイド 12 φ	07-013-E0	標準

15. ガイドパイプ選定目安表

A V			A V S			A V S S		
S q	仕上り外径	ガイドパイプ	S q	仕上り外径	ガイドパイプ	S q	仕上り外径	ガイドパイプ
0.3	1. 8 mm	3 φ	0.5	2. 0 mm	3 φ	0.3	1. 5 mm	2 φ
0.5	2. 2 mm	3 φ	0.85	2. 2 mm	3 φ	0.5	1. 7 mm	3 φ
0.85	2. 4 mm	3 φ	1.25	2. 5 mm	3 φ	0.85	1. 9 mm	3 φ
1.25	2. 7 mm	4 φ	2.0	2. 9 mm	4 φ	1.25	2. 2 mm	3 φ
2.0	3. 1 mm	4 φ	3.0	3. 6 mm	4 φ	2.0	2. 7 mm	4 φ
3.0	3. 8 mm	5 φ						

C A V U S			K V, K H V, K V H			V S F, H V S F		
S q	仕上り外径	ガイドパイプ	S q	仕上り外径	ガイドパイプ	S q	仕上り外径	ガイドパイプ
0.3	1. 1 mm	2 φ	0.3	1. 5 mm	2 φ	0.5	2. 5 mm	3 φ
0.5	1. 3 mm	2 φ	0.5	1. 9 mm	3 φ	0.75	2. 7 mm	4 φ
0.85	1. 5 mm	2 φ	0.75	2. 1 mm	3 φ	1.25	3. 1 mm	4 φ
			1.25	2. 7 mm	4 φ	2.0	3. 4 mm	4 φ
			2.0	3. 0 mm	4 φ			

U L 1 5 7 1			U L 1 0 1 5			U L 1 0 0 7		
AWG	仕上り外径	ガイドパイプ	AWG	仕上り外径	ガイドパイプ	AWG	仕上り外径	ガイドパイプ
28	0.88mm	2 φ	28	2.00mm	3 φ	28	1.20mm	2 φ
26	0.98mm	2 φ	26	2.10mm	3 φ	26	1.30mm	2 φ
24	1.11mm	2 φ	24	2.23mm	3 φ	24	1.43mm	2 φ
22	1.30mm	2 φ	22	2.38mm	3 φ	22	1.58mm	3 φ
			20	2.57mm	3 φ	20	1.77mm	3 φ
			18	2.83mm	4 φ	18	2.03mm	3 φ
			16	3.15mm	4 φ	16	2.35mm	3 φ



注意：線材メーカー、線材のクセ等により、この表より太いサイズのガイドパイプが適する場合もあります。

16. 各基板について

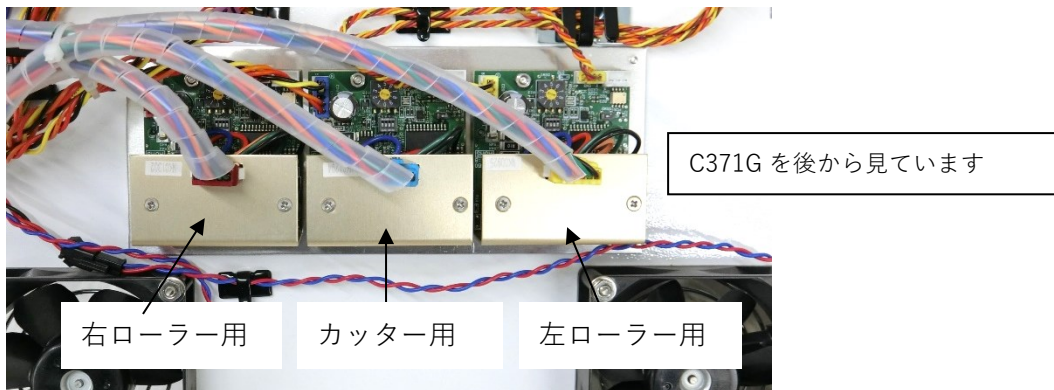


注意：メンテナンスリッドを開ける際は、必ず本機のパワースイッチを OFF にして下さい。また、OFF にしても基板に電圧が残っていますので、必ず5分以上経過してから作業して下さい。

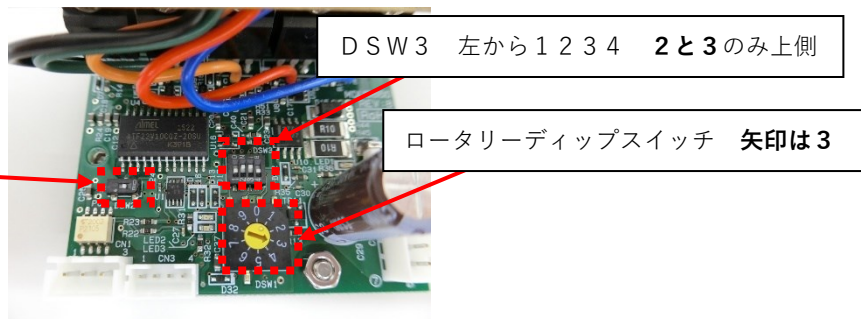
本体上面の2か所と背面の2か所のトラスネジを外すとメンテナンスリッドを開くことができます。

MDU 5 8 6 0 基板 各モーターを制御している基板です。

(旧機種で使用している **MDU 6 5 7 5 基板**とは互換性はありません)

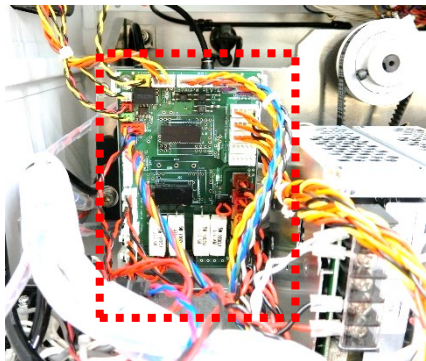


MDU 基板を本体から取り外す際は、MDU5860 基板の穴(2カ所)奥の M3 キャップスクリューを緩めるだけで取り外せます。(下写真矢印の穴)基板はこれ以上分解しないで下さい。



- ・ MDU 基板上、ロータリーディップスイッチのダイヤルはすべて“3”です。
- ・ その上にあるディップスイッチ(DSW3)は **2 と 3 が上側**で、1 と 4 は下側です。
- ・ 基板左側にあるディップスイッチ(DSW2)は**右側**です。3枚の MDU 基板は同じ設定です。基板交換の際は、各スイッチが上記になっているか確認して下さい。
- ・ (C371G は、MDU5860 基板 REV:6 以下は使用できません。)

C37XGPW 基板（電源基板）



CASM5 基板（メイン基板）

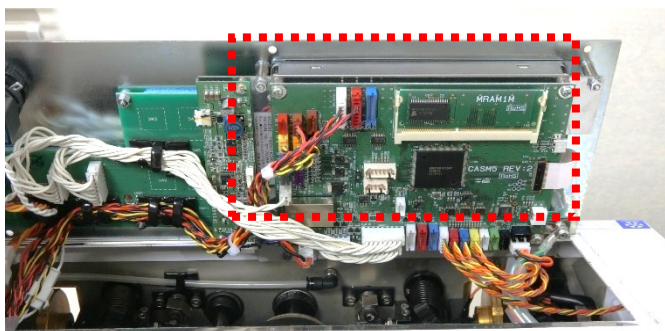
操作パネル上面 6 カ所の M3 ボタンネジを外し、電源ボタンを掴んで持ち上げると操作パネルが浮きます。

（メンテナンスリッドを開けて裏側から押し出すと簡単に浮かすことができます）

操作パネルの裏側に CASM5 基板（メイン基板）が搭載されています。



注意：各基板はむやみに取り外さないで下さい。内部清掃などのメンテナンス時は基板のコネクタの脱落・緩みに注意して下さい。



注意：操作パネルを戻す際は、操作パネル裏側のハーネスが機構部に干渉しないようにして下さい。

仕 様

型式	C A S T I N G C 3 7 1 G	
外形寸法	幅 4 5 0 mm × 奥行 4 4 0 mm × 高さ 2 9 0 mm	
重量	3 0 k g (CN-03 含む)	
電源	AC100V~240V (単相) ± 1 0 % 5 0 Hz / 6 0 Hz	
消費電力	2 7 Wh(待機時) 1 1 0 Wh (最大)	
カッティング長さ 設定可能	0. 1 mm ~ 9 9 , 9 9 9 mm	
カッティング公差	± (0.1 + 0.0005 × L) mm 以内 L = 切断長 (但し線材による)	
加工可能 (理論値) ストリップ長さ	先端 0.1mm ~ 121mm 後端 0.1mm ~ 49mm	
加工 可能 線材	種類	AVSS, VSF, IV, KIV, KV, UL, テフロン, ガラス線等
	サイズ	AWG # 8 (8 s q) ~ # 2 8 (0. 0 8 s q) (但し線材による)
	外径サイズ	最大 φ 1 1 mm (但し線材による)
線材送り速度	可変可能	
刃の材質	超微粒子合金	
動力	ステッピングモーター	

2024-10-17[Ⓔ]

※ 本仕様は改良の為、予告なく変更することがあります。